

小学部 第5学年 外国語科「Welcome to Japan」学習指導案

<p>単元の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本や中国の文化について、相手によく知ってもらうために、それぞれの国の行事や食べ物などの中から、自分が好きなことについて話すことができる。【思・判・表】</li> <li>・自分が好きな日本や中国の文化などについて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書くことができる。【知・技】</li> </ul> <p>※ 関係する領域別目標「聞くこと」ウ 「話すこと（やりとり）」ウ 「書くこと」イ</p>
<p>○日本語支援 ●多文化共生の視点</p>	<p>○児童と最後のゴールのイメージを共有し、そのためにはどのような知識や技能が必要かを話し合い、学習計画を立て、主体的に学ぶ姿勢や思考・判断力の育成の手立てを伝える。</p> <p>○チャンツや歌や交流を通して十分に音声に慣れ親しませ、簡単な語句を書くことができるようにする。</p> <p>●多文化共生の中で生きる力として、批判的思考力の育成を図る。そのために、毎回振り返りシートに書きとめ、主体的に学ぶことで自分を見つめなおすとともに、友達同士で学び合う活動を適宜行っていく。</p> <p>●題材である日本文化の紹介に青島日本人学校の特色である中国文化も取り入れ、さらなる文化の知識やコミュニケーションの素地を養う。</p>

単元の指導と評価の計画

時間	学習活動	評価			
		知技	思判表	態度	評価規準〈評価方法〉
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の行事や中国の行事について聞いたり、言ったりしよう。</li> <li>・学習のゴールを共有し、学習計画を立てよう。</li> </ul>	<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を確認する。</p>			
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの季節が好きかを友達に尋ねたり、答えたりしよう。</li> </ul>	<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を確認する。</p>			
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜその季節が好きかを友達に尋ねたり、答えたりしよう。</li> </ul>	<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を確認する。</p>			
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国や日本の行事では、どんなことをするのか簡単に答えたり、尋ねたりしよう。</li> </ul>	<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を確認する。</p>			
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本や中国のことをよりよく分かってもらえるように、自分の好きな日本や中国の文化についての語句を書くことができる。</li> <li>・日本や中国のことをわかりやすく紹介し合おう。(1回目)</li> </ul>	書	書	書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〈行動観察・ポスター・記述分析〉</li> </ul>
6 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本や中国のことをわかりやすく紹介し合おう。(2回目)</li> </ul>	や	や	や	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〈行動観察〉</li> <li>・前回のやり取りの反省を受けて自分なりに工夫して考えや気持ちなどを話している。</li> <li>〈行動観察・ふりかえりシート〉</li> <li>☆多文化共生「批判的思考力」</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の行事について知ろう。</li> <li>・単元のまとめ</li> </ul>	聞	聞	聞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〈テキストブック、単元テスト〉</li> </ul>

本時の学習

- (1) ねらい 日本や中国のことをわかりやすく紹介し合おう。
- (2) 準備 電子黒板、ピクチャーカード
- (3) 展開 (☆多文化共生の視点)

学習活動と内容	指導上の留意点	評価規準 (方法)
<p>1. Small Talk</p> <p>2. Let' s Review</p> <p>3. Last Goal の確認の学習</p> <p>4. 学習課題を確認する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した語句を用いてペアで話をするので、これまでの学習を振り返ることができるようにする。</li> <li>・歌やチャンツをしながら、学んだ表現を確認する。</li> <li>・どのような表現を使っていたか、どのような工夫をしていたかを確認し、今までの学習内容を想起できるようにする。</li> </ul>	
<p>日本や中国のことをわかりやすく紹介し合おう。</p>		
<p>5. 個人の課題を確認する 例) 伝わりやすいように声の大きさを工夫する。 I usually～を使ってみる。 作ったポスターを指さしたい。</p> <p>6. ペア活動</p> <p>7. やりとりの発表</p> <p>8. 学習を振り返る。 ・本時にできるようになったこと ・次時の内容の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までに書いたふりかえりシートを読み返して、個人の課題を確認できるようにする。</li> <li>・モデルを示し、聞いている側のリアクションも大切だということに気付くことができるようにする。</li> <li>☆友達のやりとりを見ることによって、自分を見つめなおし、友達同士で学び合うことができるようにする。(批判的思考力)</li> <li>・学習課題沿って、振り返りができるよう声を掛ける。</li> <li>☆自分の発表を見つめ直すよう声を掛け、次時につながるようにふりかえりシートに記述することができるようにする。(批判的思考力)</li> </ul>	<p>【やりとり &lt;知識&gt;】 日本や中国の行事や食べ物、日中の文化等に関する語句の表現について理解している。(行動観察)</p> <p>【やりとり &lt;技能&gt;】 日本や中国の文化等に関する語句、We have～. It' s ～. You can enjoy ～. などを用いて、考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。(行動観察)</p> <p>【やりとり &lt;思判表&gt;】 相手によりよく分かってもらえるように、自分の好きな日中の文化などについて、考えや気持ちなどを話している。(行動観察)</p> <p>【やりとり &lt;態度&gt;】 前回のやり取りの反省を受けて自分なりに工夫して考えや気持ちなどを話すことができたか。(行動観察・ふりかえりシート)</p>

## 考察

### 授業の実際（授業反省から）

- 中国の文化と日本の文化のどちらの発表するのか児童が選んだが、全員が日本の文化を選んだので中国の文化との比較までいくことができなかった。中国の文化で発表するグループと日本の文化で発表するグループと分けた方がより深まったと思う。
- 今回は、5年生の後半ということで書く活動を取り入れた学習計画を立てたが、書いてから発表する形だと読みの学習になってしまった。たくさん話した後に書く活動を入れた方が良かった。
- 児童は、大変意欲的で楽しそうに友達とのやりとりを楽しんでいた。1回目より2回目の方が内容を考えながらも、すらすらと友達へ話すことができていたようだった。



### ～ 児童の感想から ～

- 前回の簡単なやりとりよりも、今日の授業の方がわかりやすく伝えるために声を大きくして、工夫することができた。
- 友達一人ひとりと何回もやりとりをすることによって、徐々に上手になってきたのが分かった。とても楽しかった。
- 友達から良かった点を褒められて嬉しかった。

### 考 察（話し合いから）

- 英語で会話を続けようとする力がついてきていると感じた。質問だけでなく、相槌をうったり、Me too. などと反応したりと自然に返していた。毎時間の積み重ねが成果として表れていると感じた。
- リズム良く、担任からの誉め言葉も多く感じた。
- 活動の際に一旦止めて、ポイントを評価していた。
- アドバースタイムが良かった。友達から認められて嬉しそうだった。
- 場を変化させて、動きをつけることで練習時間が活動として位置づけられていた。
- 振り返りシートに書いたり、友達からのアドバイスを聞いたりすることで、自分の姿を客観的に評価することができていた。
- カードから離れても良かったかもしれない。自然なやりとりも見なかった。
- 書くことについて、どこまで行うか。
- 中国があまり出てこなかったのが、グループ対抗などにしても良かったと思う。

